

【鹿野川ダム】切迫感が伝わる放流警報手法の試行

当面の対応として、異常洪水時防災操作移行の周知について、緊急性がより切迫感を持って伝えられるように試行的に実施し、この内容については、今後、「検証等の場」において、より効果的な情報提供や住民への周知の在り方を踏まえ検証して参ります。



【サイレンの吹鳴回数を変更】

異常洪水時防災操作以外：1回 **異常洪水時防災操作：1回から2回繰り返しへ見直し**

異常洪水時防災操作以外

(約1分) (10秒) (約1分) (10秒) (約1分) (10秒) (約1分) (10秒) (約1分) × 1回
吹鳴 休止 吹鳴 休止 吹鳴 休止 吹鳴 休止 吹鳴

異常洪水時防災操作

2回繰り返し

(イメージ) **スピーカー**

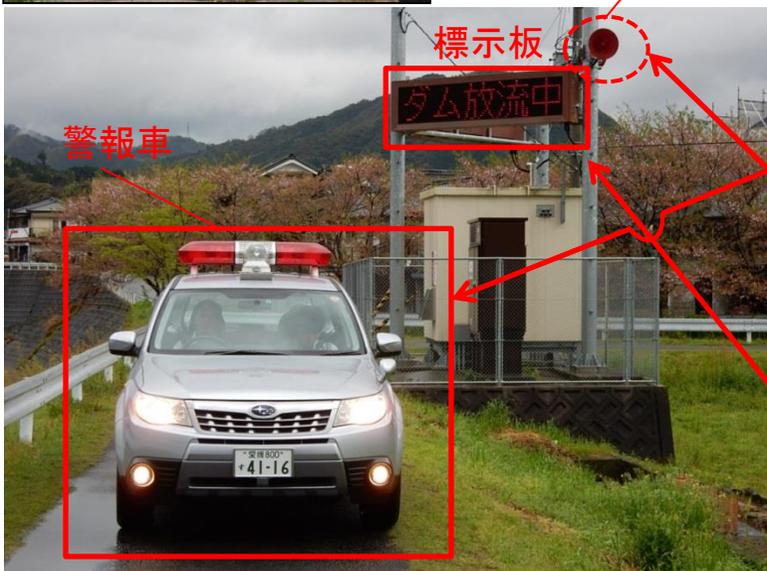
【スピーカー(各警報所・警報車)から切迫感の伝わるアナウンスに変更】

異常洪水時防災操作

「異常洪水時防災操作に移行する予定。厳重に警戒して下さい」

見直し

「これまでに経験のないような洪水です。ただちに命を守る行動をとってください」



【柚木警報表示板の表示を切迫感の伝わる文面に変更】

異常洪水時防災操作

ダム放流中

見直し

ダム放流増加 非常事態